

逐次通訳付き

# 子どものこころシンポジウム

## ～傷ついた地域で育つ子どもを支えるために～

東北地方は、東日本大震災により甚大な被害を受け、今なお、多くの被災者が回復途上にあります。傷ついた個人の回復プロセスと同様に、傷ついたコミュニティにも回復のプロセスがあります。その中で成長していく子どもたちにもさまざまな問題が生じ、対応に迫られる場面が少なくありません。

この度、コミュニティの中でこころのケアを実践されている、国内外のスピーカーをお招きしました。

異なる文化の中でコミュニティの回復と子どものこころのケアについて考える機会にしていきたいと思います。

参加費 無料  
定員 100名  
※先着順

日時 平成29年12月19日(火)  
10:00～15:00 (受付開始 9:30)

場所 TKPガーデンシティ仙台勾当台3階ホール5  
宮城県仙台市青葉区国分町3丁目6番1号仙台パークビル3F

申込締切日 平成29年12月12日(火)

※裏面の参加申込書をご記入の上FAXでお申し込みください。  
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。なお、ご希望に添えない場合はご連絡させていただきます。



仙台駅より仙台市営南北線 勾当台公園駅下車 北1番出口 徒歩1分

### プログラム

10:00～10:20

開催挨拶～趣旨説明および日本の現状について～  
みやぎ心のケアセンター 企画研究部長 福地 成



10:20～11:20

Creative a Safe Supportive Environment for Children After a Major Disaster  
大災害後に子どものための安全で支持的な環境をつくる  
メルボルン大学 シニア・フェロー(オーストラリア) オイゲン・コウ 氏



11:20～12:20

How we should Support Survivors and Family Members after the Sewol Ferry Disaster in South Korea  
韓国セウォル号沈没事件の生存者と家族をどのように支えるべきか  
大邱大学校 社会福祉学部 教授(韓国) ジンヒー・ヒュン 氏



(12:20～13:00 休憩)

13:20～14:20

東日本大震災後の子ども達  
岩手医科大学/いわてこどもケアセンター 副センター長 八木 淳子 氏



14:20～14:50

質疑応答

14:50

閉会挨拶



## 講 師 紹 介

## オイゲン・コウ氏 (Eugen Koh)

オーストラリアのメルボルンで個人のクリニックをかまえる一方、メルボルン大学のシニアフェローとして各種プロジェクトに携わっています。前職ではダックスセンターの館長として、アートを用いた精神保健の普及啓発を実践しました。オーストラリアの山火事、迫害を受けたアボリジニーのメンタルヘルス支援にも注力し、コミュニティを対象とした傷つきの回復にも多くの知見をお持ちです。

## ジンヒー・ヒュン氏 (Jinhee Hyun)

韓国の大邱大学校・社会福祉学部で教授として教鞭をとるソーシャルワーカーです。韓国トラウマティック・ストレス学会の副会長をお勤めです。韓国の米軍病院にて、隊員やその家族の支援を行っています。PTSD、家庭内暴力や虐待を受けた子どもやその家族の支援を専門として活動をしています。2014年のセウォル号沈没事件の後、その生存者とご家族の支援を展開しています。

## 八木 淳子氏

いわてこどもケアセンターの副センター長として、東日本大震災で傷ついた子どもの診療に従事する児童精神科医です。前職では盛岡少年刑務所に勤務し、少年司法の立場から養育環境や発達障害に起因する社会問題に取り組みました。「東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究」の代表者として研究を推進し、多くの知見をお持ちです。

参加ご希望の方は、下記申込書に記載のうえ FAX にてお申し込みください。  
(ホームページおよびQRコードよりお申し込みすることもできます。)

## 参加申込書

FAX 022-263-6750

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター 企画研究課 行

申込締切日 平成29年12月12日(火)

お名前	ご所属	ご連絡先(電話番号)
フリガナ		

## 個人情報の取り扱いについて

本申込書に記入いただく個人情報は、出席名簿の作成、イベントに関する諸連絡事項が発生した場合、参加者へのご連絡に利用します。ご提供いただいた個人情報は原則として上記目的のみに使用し、他の目的に使用しません。他の目的に利用する際は、改めてその使用目的を連絡致します。